

マンデーグラウンド・ゴルフから 50,000歳の大会へ 地域に誇れるクラブから地域が 誇れるクラブへの取り組み

グラウンド・ゴルフによる笑顔で作る
新しいコミュニティの構築

主催：特定非営利活動法人吉野スポーツクラブ

<http://web1.kcn.jp/ysc/>

過疎化・高齢化が加速的に進む吉野町(町人口：H15年11,000人、R2年6,800人)において、高齢者の健康と生きがいづくりを掲げ、マンデーグラウンド・ゴルフと銘打ち、施設の休館日を利用し、毎週月曜日に開催。平成20年から22回開催。毎回80～100名が楽しく元気に参加する事業として定着している。参加者は年間4,000人、町外は600人。大会においては、春は吉野の桜の時期、秋の紅葉時の年2回開催し、地域をあげて県外や町外の参加者をゲストとして迎え入れる大会へと定着している。大会を自らの手で開催する中で入賞商品や抽選会商品を地元の特産品の提供にも力を入れることで地域の協力も得られている。マンデーグラウンド・ゴルフにおいてもホールインワンカードによる意欲づけ等各種の工夫を凝らし、身の丈にあった無理なく永続的な活動に繋がるよう取り組んでいる。吉野は、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」、桜の吉野山等々、歴史と自然あふれる地域を体験してもらえる日々の活動や大会を進めていきたい。



電話：0746-32-1119 メール：ysc.manager@kcn.jp
担当者：林 美穂

藤枝商工会議所会頭杯 藤枝シニア草サッカー大会

サッカーで多世代交流!!
蹴球都市で気軽に、楽しくサッカーを!

主催：藤枝商工会議所

藤枝シニア草サッカー大会は、全国のシニア世代の親睦と交流、シニア世代の生涯スポーツの振興に寄与することを目的に、「蹴球都市藤枝」で楽しく気軽に参加できる大会としている。平成25年に第1回大会、これまで7回開催。参加人数442名(第7回大会)。今年はコロナの影響で中止。単なる大会ではなく、実績として藤枝市の友好都市・交流都市である韓国揚州市チーム、石川県白山市チームとの交流、シニアと地元幼稚園児の世代を越えた交流、「蹴球都市藤枝」らしく、市立高洲中学校女子チームとの交流、静岡県 の 県民元氣事業の一環として、健康づくりや健康増進の一助とするため、シニアの健康と生活に関する調査を行いシニアに優しいお弁当の開発などを行った。

県外の参加者に藤枝の地酒を堪能するイベントの開催など、毎回工夫を凝らした大会としている。また、大会の拡大、拡充を図るため、新たに人口芝Gの整備のため、募金活動を進め行政の支援を得て、平成28年には日本サッカー協会公認の人工芝Gが完成、オール藤枝のおもてなしを行い、メキシコオリンピック銅メダリストの杉山隆一氏、富沢清司氏、山口芳忠氏も参与として参加いただきながら地元JAおおいがわ、藤枝市観光協会とも連携し、産業振興、地域振興に取り組んでいる。



電話：054-641-2000 メール：fcci@fujieda.or.jp
担当者：経営支援課第2課 徳浪 和浩

剣道専門オンラインサロン 「剣道イノベーション研究所」

～道場の概念を超えて、革新的に剣道を探求する～
八段の本格指導をその手に

主催：岡田守正 教士八段

共催：永松謙使

<https://www.kendoinnovationlabo.com/>

剣道イノベーション研究所は、「道場の概念を超えて、革新的に剣道を探求する」のビジョンのもと、新たな道場のあり方を提案する世界初のオンラインサロン型の剣道道場です。最高位の剣道教士八段を有する岡田守正氏を主宰者に迎え、時と場所を問わず最高レベルの指導を受けられる環境を作っています。従来の「指導者からの一方向での学習」から脱却し、コミュニティ内での「双方向での学習」によって、年齢や性別、修練度等を問わず、全員が高い剣道観を目指す仕組みとなっています。発足は、2020年。オンラインでのコミュニティやコンテンツ配信による質の高い剣道学習を実現しています。現在、日本のみならず海外からもサロンに参加いただいております。これまでの「道場」の形をアップデートする取り組みを行なっています。さらに発展形として、「都道府県サポーター」と題し、全47都道府県に担当サポーターを配置し、「オンラインサロン」という学習形態を全国に拡大するプロジェクトを進めています。また、学校法人と提携し、剣道具職人を育成して輩出する仕組みづくりを始めています。



電話：080-5642-3141

メール：kendoinnovationlabo@gmail.com

担当者：永松 謙使

「みんなで つくろう 野球のまち」

「野球をするなら阿南へ行こう」

主催：野球のまち阿南推進協議会

<http://baseball.city.anan-tokushima.jp>

徳島県阿南市に、本格的野球場である「アグリあなんスタジアム」が平成19年5月にオープンしたことに合わせ、地域で人気の高い野球を通して地域振興を図る目的で、阿南市と地元政財界が連携して「野球のまち阿南推進協議会」を組織しました。

野球と言えば、プロ野球や高校野球に目が向きがちですが、中高年齢層(団塊の世代)や学童(小学生)の野球に着目し、生涯野球(50歳以上)大会や学童軟式野球大会の開催、野球と観光をセットにした野球観光ツアーを行うことで、年間約5000人の宿泊客を迎えるまでの事業に発展させることに成功しており、その経済効果は、直接的な経済効果のみで毎年約1億円以上となっています。

野球合宿においては、中国深圳市少年野球チームの誘致が実現したことにより、野球による国際交流に発展しています。野球大会の運営に必要なスタッフである審判員・放送員・記録員・運営委員の養成がこの事業の生命線であり、人材の育成に特に力を入れ基盤整備をはかり「野球のまち」を揺るぎない事業に発展させる中で、草野球(軟式野球)の全国的ネットワークを構築し、草野球の聖地を目指しています。これまで野球大会15回、野球観光ツアー12チーム、野球合宿誘致6チーム。参加人数9,226人(うち県外宿泊者数4,684人)。



電話：0884-22-1297

メール：yakyuunomachi@anan.i-tokushima.jp

担当者：松崎 知巳

限界集落の小さな挑戦 「スポーツ合宿誘致による 地域づくり」

居住者37人、平均年齢66歳の小さな限界集落が
スポーツの合宿誘致により、地域に活力を生み出す。

主催：丸山自治会（大分県竹田市久住町）

九州中央の山間地に位置する竹田市久住町「丸山自治会」の人口は37人。高齢化率は52%を超えた、小さな集落です。2014年、築37年の老朽化した自治会公民館の改修計画が持ち上がったことをきっかけに交流施設への転換を協議してきました。大きな予算を伴うことから、話し合いでは反対意見もありましたが、地域活力を取り戻すためにも行動を起こす、との意見でまとまり、スポーツ合宿ができる施設として2016年2月にリノベーションが完了しました。

合宿誘致の準備をしていた直後の4月、熊本大分地震が発生し、当集落も大きな揺れを観測し、集落内の危険ヶ所に住む住民の避難所として使われました。震災の影響で利用があるか心配されましたが、GW中には県内の高校陸上部が合宿に訪れ、夏には高校女子駅伝強豪校の合宿が実現し、集落全員でチームを応援するなど協力体制が高まりました。また、集落の山林にはクロスカントリーコースを造成し、ランナーの皆さんに自由に使ってもらっています。限界集落がアイデアを出し、夢実現のための地域づくりに取り組む姿を全国に発信できればと考えています。



電話：090-2390-1877 メール：adachi25@oct-net.ne.jp
担当者：足立 達哉

地域の人材・団体・資源を活用した 「CSYトップアスリート 指導セミナー」

横須賀の地で育まれたアスリートをはじめ地域の様々な団体と協働
～横須賀から世界へ はばたけ子どもたち!～

主催：一般財団法人シティサポートよこすか

<https://www.cs-yokosuka.com/>

一般財団法人シティサポートよこすか(CSY)トップアスリート指導セミナーは、プロの世界や国際的に活躍するトップアスリートに子どもたちを直接指導していただき、子どもたちのスポーツ能力を高め、していくことを目標としています。実施に際しては、地元出身のアスリートやスポーツ団体との協働を大切にしています。令和元年10月、リオデジャネイロオリンピック銀メダリストのケンブリッジ飛鳥選手をお招きし、横須賀市陸上競技協会など様々な団体とともに、1000名を超える参加のもと第1回目の指導セミナーを開催しました。

令和2年度はコロナ禍もあり、いくつかのセミナーの中止も余儀なくされましたが、「運動会を思いきり走ろう」をテーマに「元日本代表陸上選手が教える走り方教室」や、プロサッカー選手が小学生のサッカーチームや中学校・高校などの子どもたちのもとを訪れて指導するサッカー教室を開催します。このほか、「ウインドサーフィン&SUP体験会」を地元在住のロンドンオリンピック日本代表、須長由季選手に参加いただき実施します。

横須賀の地で育まれたアスリートをはじめ地域の様々な団体と協働しながら、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えたい。私たちは、子どもたちの夢を育てていきます。



電話：046-823-1915 メール：koueki@cs-yokosuka.com
担当者：三浦 周作

マルチステイクホルダーによる パラ・スポーツ環境の整備

スポーツコミッション,クラブ,企業,地域,そして高校生が
パラ・スポーツ環境を整えて,事前合宿まで誘致成功!

**主催：おokayamaスポーツプロモーション機構／
岡山南ロータリークラブ,岡山工業高校,岡山市**

<https://www.facebook.com/SPOC.Agency/>

当プロジェクトは、岡山市において、産・官・学・スポーツ・地域が連携したパラ・パワーリフティングの普及・強化と東京パラリンピック事前合宿誘致に向けた専用ベンチプレス台の制作・配備プロジェクトです。ベンチプレス台の制作は、岡山工業高校の授業(卒業制作)として実施され、2カ年にわたって2台が岡山パラ・パワーリフティングクラブに寄贈され、活動拠点に配備されました。その結果、パラ・パワーリフティング台湾女子代表、同日本代表の合宿誘致と台湾パラリンピック委員会と岡山県・岡山市等との連携協定締結が実現しました。

当プロジェクトの波及効果は参画したすべての団体に及んでいます。岡山パラ・パワーリフティングクラブにとっては悲願であった専用用具の配備が実現しました。岡山県教委や岡山工業高校にとっては社会的意義の大きな授業となり、同校の高い技術力が市民・県民にPRされた。制作費を支援した岡山南ロータリークラブにとっては、数カ年にわたって展開してきた障がい者スポーツ支援の取り組みの目に見える成果となりました。地元の障がい者スポーツの課題解決をめぐって地域内の多様な団体が持続可能な協働関係を構築できたことは非常に大きなレガシーになりました。



電話：086-227-0015 メール：aoyama@okayama-kanko.net
担当者：青山 昌史

レゲエ・マラソン

カリブ海の風を受けながらジャマイカの陽射し、
レゲエのリズムと共に走り抜けるユニークなマラソンレース

主催：レゲエ・マラソン事務局、ジャマイカ政府観光局、鳥取県、
レゲエマラソン親善大使、特定非営利活動法人ジャマイカ情報センター
<https://www.reggaemarathon.com/>

ジャマイカ・ネグリルで開催されるレゲエ・マラソン大会(国際陸上競技連盟承認レース)を通じて、ジャマイカを観光しながら走る楽しさを広めるべく、レゲエ・マラソン親善大使として、レゲエ・マラソン事務局と共に告知活動を務めています。2016年より、鳥取県とジャマイカ・ウェストモアランド教区が姉妹都市提携を結び、両都市の国際交流が図れており、スポーツの分野として、マラソンを通じての交流も続いています。鳥取マラソンの優勝者とレゲエ・マラソンの優勝者男女それぞれがお互いの都市の大会へ招待選手として招かる仕組み。2016年から2019年のレゲエ・マラソンでは、連続で鳥取県からの招待選手(男性)が優勝を飾り、ジャマイカ国内のローカルニュースでも取り上げられる等し、日本及び日本人ランナーの知名度もあがってきています。

レゲエ・マラソンは歩いて参加も大歓迎であり、その部分を推して告知を試みます。まずはこの土地を訪れ、美しいビーチや世界遺産のブルーマウンテン(UCC上島珈琲農園もある)など自然を満喫し観光を楽しみながら、大会への参加を誘導すべく、今後も活動を続けていきます。



メール：iwao@comomo.net
担当者：巖 真弓

子どもたちと山を走る×地域振興 ～大会を通じて社会性も学ぶ～ 「ジュニアトレイルランニング」

子どもを主役にした日本唯一のトレイルランニング大会

主催：FUJIO PROJECT

<https://www.fujioproject.jp>

ジュニアトレイルランは子供達を主役にしたトレイルランニング(山を走る)大会で、保護者とペアで参加できる未就学児部門(下は1歳から参加)、小中学生、保護者部門があります。東京都、千葉県、山梨県、長野県、神奈川県(逗子市)を中心に開催しており、2019年からは静岡県と横須賀市(神奈川県2ヶ所目)が加わりました。いずれの大会も域外から5割が参加していることに加え、参加種目が子どもから大人までであることから家族連れの参加が多く、大会に出場するだけでなく開催地域の観光や宿泊の効果もあります。

主催者の地元である神奈川県逗子市ではジュニアトレイル開催にとどまらず、県立逗子高校では選択授業の1つとして実施(今年で5年目)され、市内ハイキングコース維持管理を逗子市と連携して行い、また、2020年3月には新型コロナウイルスの影響で自宅待機になった児童たちを対象に「トレイルランニング学童」を実施し、神奈川新聞でも取り上げられるなど多様な活動を行っています。このようにトレイルランニングの大会にとどまらず、子どもたちに多様な経験をさせることや地域活動に積極的に参加すること、加えて開催各地の地域振興に努める幅広い活動を行っています。2021年以降も継続的に開催するとともに新たな開催地を増やすために働きかけています。



電話：090-5305-7773 メール：fujioproject@gmail.com
担当者：宮地 藤雄

奈良マラソン 短歌コンテスト

主催：奈良マラソン実行委員会

<http://www.nara-marathon.jp/>

二〇一〇年に平城遷都一三〇〇年記念事業の一環として始まった奈良マラソン。二〇一九年、第十回大会の記念事業として、新元号「令和」の出典が奈良ゆかりの「万葉集」であることにちなみ「奈良マラソン短歌コンテスト」を実施しました。マラソンと短歌。一見接点を見いだすことが難しいが、コンテストをきっかけにコース沿道ゆかりの万葉集の和歌に興味を持っていただき、応援やボランティアの人にもマラソンへの想いを表現してもらいたいと考えました。

全国四十一都道府県から十歳代～九十歳代の三百六十二人の方から合計五百七十九首の応募がありました。「奈良マラソンは走るだけじゃない。応援する人が短歌を作るんだ。さすが奈良は違うな、と言われ、短歌コンテストが奈良マラソンの一つの名物になってほしい」と選者の上野誠奈良大学教授。短歌によってランナーの想い、応援する人の想いをお互いが知るといふ、まさに万葉集の時代の気持ちのやり取りを再現する楽しさ。これを大会の特徴として定着させるべく、今後もコンテストは継続方針。今年新型コロナウイルス感染症の拡大で大会自体は中止になりましたが、コンテストは「マラソンしたい！応援したい！支えたい！」をテーマに実施する予定。奈良ゆかりの万葉集にちなみ、マラソンと短歌を結びつけた企画。ランナーや応援者等、全国から多数の応募があり、奈良マラソンの新たな名物的取り組みとして、今後も継続する方針。



電話：0742-81-8752 メール：info@nara-marathon.jp

担当者：林 潤